

共同通信社

第二回全国スポーツ懇話会

2013年8月29日(木)

共同通信社 14F 会議室

演題

『監督論』

～リーダーが果たす役割とは何か?～



講師

法政大学特任教授

バルセロナオリンピック野球日本代表監督

山中 正竹 氏

(やまなか まさたけ)

1947年4月生まれ、大分県佐伯市出身。大分県立佐伯鶴城高校卒業後、法政大学入学。1年生の時からエースとして活躍、在学4年間で48勝の東京六大学連盟記録を樹立(2位は江川卓の47勝)。田淵幸一、山本浩司、富田勝ら「法政三羽ガラス」と共に法政大の黄金時代を形成する原動力となった。大学卒業後は住友金属工業野球部の中心選手として活躍。引退後は、住友金属の監督に就任。88年のソウルオリンピックには、野球日本代表のコーチとして出場。野茂、古田、野村(謙)らの活躍で銀メダルを獲得。92年のバルセロナオリンピックでは日本代表監督として出場し、小久保、伊藤、杉浦らと銅メダルを獲得した。94年から02年まで9年間母校法政大学野球部監督を務める。2003年にはアマチュア出身ながら横浜ベイスターズの専務取締役役に就任、06年には第1回WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の技術委員も務めた。法政大学特任教授。

主催：共同通信社

後援：公益財団法人全国高等学校体育連盟・公益財団法人日本中学校体育連盟